



THINK × ACT
KANSAI
UNIVERSITY



CTL Kansai University Center for Teaching and Learning Newsletter



関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

December 2012

vol. 10



授業に参加する意義を 高めましょう

教育推進部長(副学長) 林 宏昭



2012年10月から、教育推進部長を拝命した経済学部の林です。

教育推進部の取組みの一つに、FD活動があります。講義やゼミの効果が少しでも高められるように、さまざまな手法を検討しています。しかし、授業の改善の主体はあくまでも担当者と受講生です。

ここで少し、教員の授業への取組みについて考えてみたいと思います。私の恩師が生前に書かれたものの中で、「試験さえできれば、講義に出たくなければ出なくとも良い」というメッセージを学生に対して送ってはいないか”と指摘されていました。これについて、実は思い当たる節があります。

私の専門は財政学という分野で、政府支出や税のことなどを講義で話します。学生も将来は納税者となり、政府支出や税金のあり方を考える力を身につけて欲しいという思いで講義をしています。したがって、教科書や専門書

を用いて、様々な考え方を理解してもらうことでも良いのではないかとも思えます。知識を問う試験問題でなければ、本を読むことである程度の答案は書けるでしょう。

しかし、大学で学ぶということは、授業に出席して何を得るかが基本です。そのためには、教員はさまざまな形で授業に参加することのメリットを示さなければなりません。授業に参加することで、知的好奇心が満たされることがあるでしょうし、授業を受ける前と比べれば考え方の視界が広がったこともあるでしょう。そのようなメリットを示すうえで、教員はなにができるのか、何をしなければいけないのかを考えなければなりません。授業における受講生の反応（少なくとも、わかったのか、わからないのか）や、授業の後の質問は、教員が何をしなければいけないのかを知る大きなヒントになります。学生の皆さんも、授業に座っているのではなく参加して、教員が考える手助けをしてください。